

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

本市児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和6年4月18日（木）
 (2) 調査対象 小学校第6学年 中学校第3学年
 (3) 調査内容 国語 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 算数・数学 「知識」「活用」を一体的に問う問題
 質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要

（令和6年度と直近実施年度との比較）

- (1) 全国・千葉県・指定都市の平均正答率(%)と千葉市全体の結果（全国は、公立のみを示す）

【資料1】問題別平均正答率一覧(%) [全国・千葉県・指定都市・千葉市] <令和3年度～令和6年度>

		全国 平均正答率	千葉県 平均正答率	※指定都市 平均正答率	千葉市 平均正答率	全国との 比較	
小学校	国語	令和6年度	68	67	68	68	0
		令和5年度	67	67	68	68	1
		令和4年度	66	66	66	67	1
		令和3年度	65	65	65	65	0
	算数	令和6年度	63	63	64	65	2
		令和5年度	63	62	63	63	0
		令和4年度	63	63	64	64	1
		令和3年度	70	70	71	71	1

		全国 平均正答率	千葉県 平均正答率	※指定都市 平均正答率	千葉市 平均正答率	全国との 比較	
中学校	国語	令和6年度	58	57	59	58	0
		令和5年度	70	69	70	71	1
		令和4年度	69	68	66	69	0
		令和3年度	65	65	65	66	1
	数学	令和6年度	53	51	53	52	-1
		令和5年度	51	51	52	53	2
		令和4年度	51	50	52	52	1
		令和3年度	57	56	58	58	1

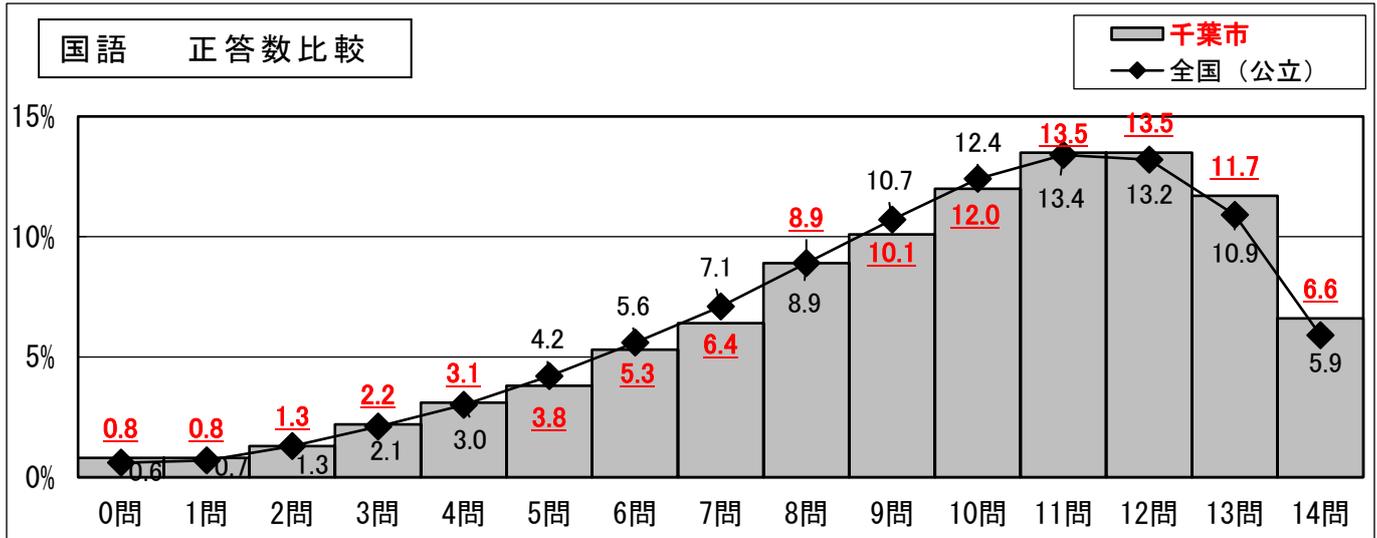
※平成28年度より平均正答率は整数値で公表

※千葉県平均正答率は、千葉市を含んだ千葉県の正答率の数値

※全国及び指定都市の平均正答率は、公立のみの正答率の数値

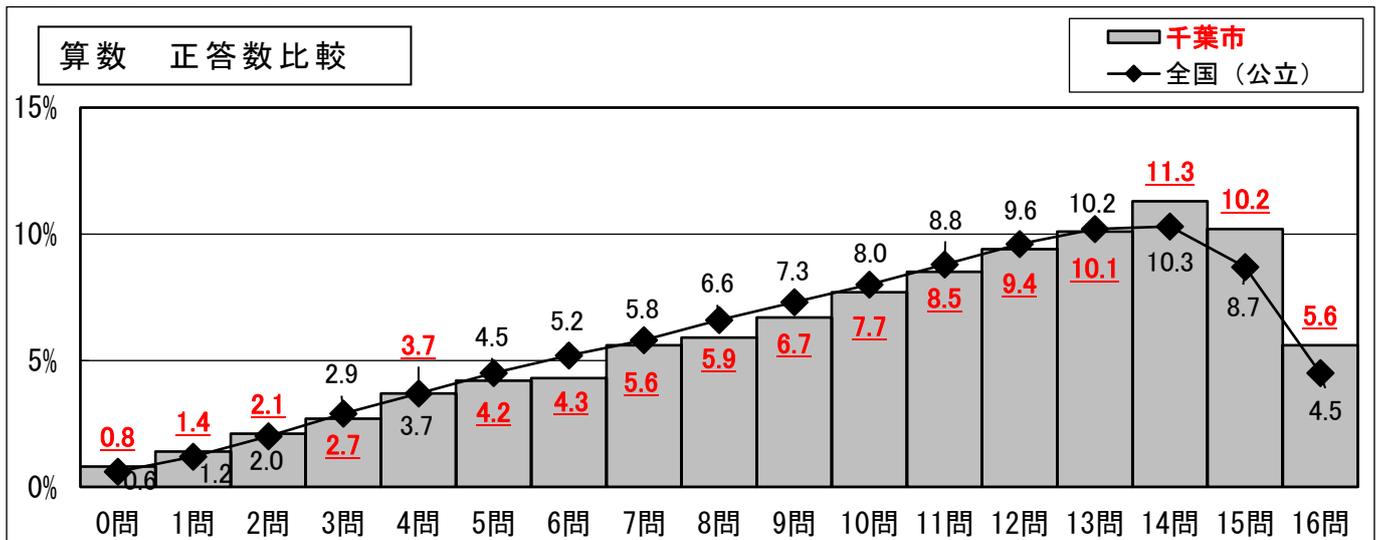
(2) 正答数の分布 (全国との比較)

【資料2】正答数分布 (横軸: 正答数、縦軸: 人数の割合) [全国・千葉市] <令和6年度>
<小学校6年生国語>



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	9.6 問 / 14 問	68%	10.0	3.1
全国 (公立)	9.5 問 / 14 問	68%	10.0	3.1

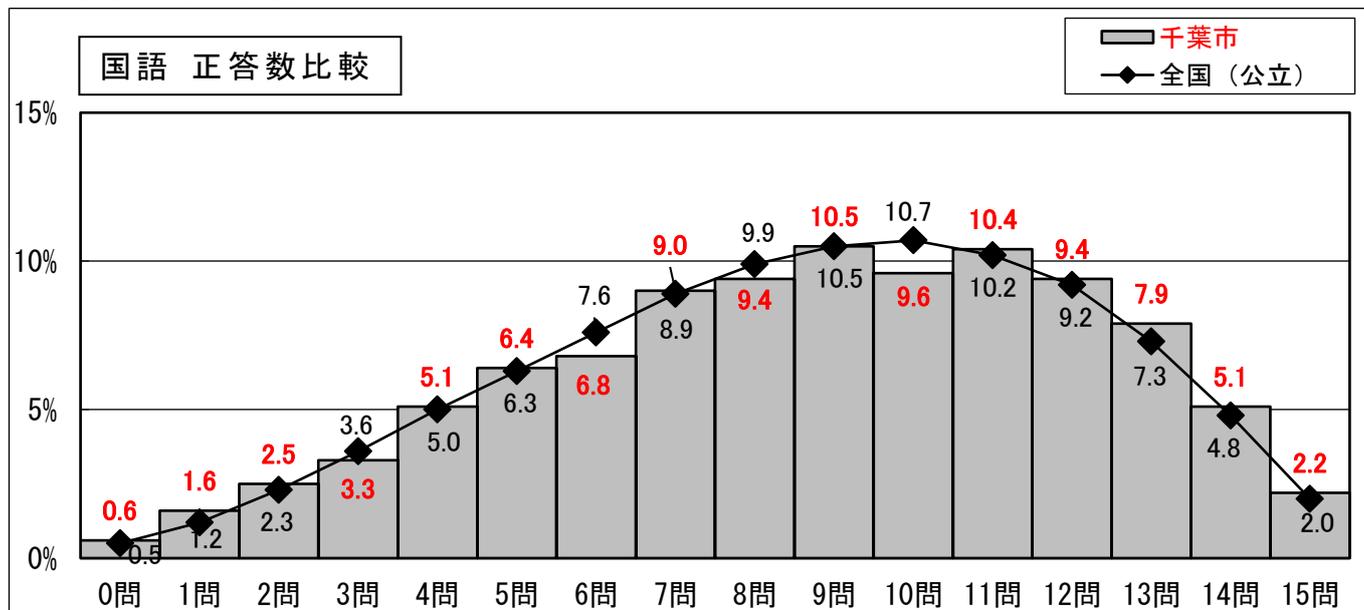
<小学校6年生算数>



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	10.4 問 / 16 問	65%	11.0	4.0
全国 (公立)	10.1 問 / 16 問	63%	11.0	3.9

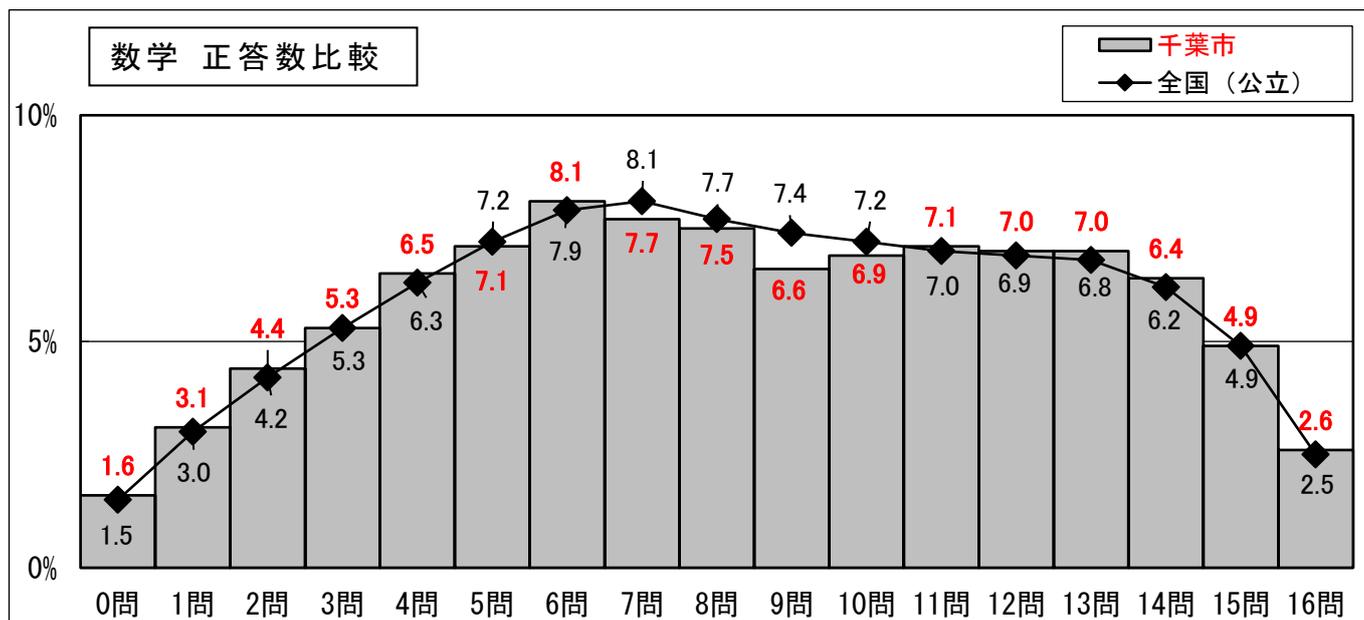
- ・国語では、平均正答数が全国より0.1問高く、平均正答率は同等。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっている。正答数が0～2問の層は全国と比較して同程度、11問以上の層の割合は全国と比較して高くなっている。
- ・算数では、平均正答数は全国より0.3問高く、平均正答率は2ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に右寄りの山型のグラフになっており、正答数が0～3問の層と14問以上の層の割合が、全国と比較して高くなっており、二極化の傾向が見られる。
- ・2教科共通して、上位層の学習のさらなる充実を図るとともに、正答率が低い層への学習指導を見直し、中位層に引き上げることが課題である。

< 中学校 3 年生国語 >



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	8.7 問 / 15 問	58%	9.0	3.5
全国 (公立)	8.7 問 / 15 問	58%	9.0	3.4

< 中学校 3 年生数学 >



	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
千葉市	8.4 問 / 16 問	52%	8.0	4.2
全国 (公立)	8.4 問 / 16 問	53%	8.0	4.1

- ・国語では、平均正答数と平均正答率は全国と同等である。正答数の分布は、全国と同様に正答数の多い生徒の割合が高い、右寄りの山型のグラフになっている。正答数が11問以上の上位層の割合が全国よりも高くなっている。下位層と中間層の引き上げを図ることが今後の課題である。
- ・数学では、平均正答数は全国と同等であり、平均正答率は1ポイント低い。正答数の分布は、全国と同様の中央にややくぼみが見られるふたこぶ型となっている。正答の少ない下位に位置する生徒に対して、有効な手立てをとることが今後の課題である。

(3) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移<令和5年度と6年度との比較>

【資料3】全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

令和5年度の全国と各学校の平均正答率の差と令和6年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒も異なっているが、変化のある学校の傾向を把握するため、経年比較を行う。

ア 小学校（条件：令和5年度または令和6年度の該当学年の調査実施児童数が40人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語	算数
新宿		↗
本町	↗	↗
寒川		↗
登戸	↗	↗
院内	↘	
蘇我	↗	↗
都	↘	↗
都賀		↗
検見川		
稲毛		
園生		↗
若松	↘	
大森	↘	↘
稲丘	↘	↗
花園		↗
幕張	↘	
長作		
生浜	↘	↘
誉田	↘	
轟町		↗
鶴沢		↗
平山		↗
松ヶ丘		↗
宮崎	↘	
緑町		
川戸		
山王		
小中台	↗	↗
小倉		↗
千草台		↘
稲毛二		
あやめ台	↘	
星久喜		↗
幕張東		
土気	↗	↗
桜木	↘	↘
宮野木	↗	↗
生浜西	↗	↗
西小中台	↘	↘
さつきが丘東	↘	↘

学校名	国語	算数
北貝塚	↗	↗
幕張西	↘	
草野		↗
柏台	↗	↗
千城台東	↗	↗
小中台南		
幸町三	↗	↗
高洲三		
千草台東	↗	↗
作新	↘	↗
みつわ台北		↗
誉田東	↘	↘
みつわ台南	↘	
幕張南	↘	
都賀の台		
上の台		↗
磯辺三	↗	↗
朝日ヶ丘	↘	↘
生浜東		↗
泉谷	↗	↗
土気南		↗
西の谷		
小谷	↗	↗
有吉		
打瀬		
金沢	↘	↘
あすみが丘		
扇田	↗	↗
海浜打瀬		
おゆみ野南	↘	↘
美浜打瀬		
高洲		↗
真砂東	↘	
真砂西		↘
高浜海浜	↘	↘
磯辺		↗
幸町	↘	↗
千城台みらい	↘	

推移表記 ↗:全国平均との差が大きく向上 ↖:全国平均との差が向上 空欄:全国平均との差に大きな変化がない ↘:全国平均との差が低下

イ 中学校（条件：令和5年度または令和6年度の該当学年の調査実施生徒数が80人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語	数学
加曽利	↘	↘
葛城		↘
椿森	↗	↗
緑町		
小中台		↘
花園		
新宿		
蘇我		↘
幕張		
生浜		↘
誉田		
轟町	↘	↘
松ヶ丘		
稲毛	↘	↘
千城台西		
星久喜	↗	↗
さつきが丘	↘	
草野		
幕張西	↘	↘
都賀	↘	↘

学校名	国語	数学
みつわ台	↘	↘
緑が丘		↘
天戸		↘
若松	↘	
幸町二		
山王	↗	↗
稲浜		↗
朝日ヶ丘	↘	
貝塚	↘	
泉谷	↘	↘
幕張本郷		↘
土気南	↗	
打瀬		↗
有吉		
大椎	↘	↘
稲毛国際中等	↗	↘
真砂	↗	
おゆみ野南		↘
磯辺		
高洲	↘	↘

推移表記 ◀: 全国平均との差が大きく向上 ▶: 全国平均との差が向上 空欄: 全国平均との差に大きな変化がない ▼: 全国平均との差が低下

【資料4】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組み事例<経年推移の比較から>
 顕著な向上が見られた学校からは、以下のような取組みが報告されている。

ア 小学校

学校名	取組みの内容
本 町	<p>年間や各教科等の単元を通して、目指す姿や付きたい力を児童と教師が共有して学習を行った。</p> <p>また、掲示物を精選して教室環境を整備したり、机や椅子の高さを児童に合ったものにしたことで、児童が学習に集中して取り組めるようにした。</p> <p>授業においては、学び方を児童が決定、調整できるようにしたり、思いや考えを言葉にして発信できる機会を増やしたりした。さらに交換授業を積極的に運用することで職員の教材研究や児童理解の推進を図った。</p>
登 戸	<p>昨年度より「主体的に取り組む、学び合う子供の育成」を研究主題とし、国語科の研究に取り組んでいる。「自分の考えを目的や場面に応じて的確に伝えることができる子供」や「相手の考えを正しく聞き取り、相手の気持ちを受け止めることができる子供」の育成を目指し、授業だけでなく、日常生活の中で言葉を豊かにする活動を積み重ねてきた。身に付けさせたい力に応じた言語活動の設定と指導の工夫を行うことで、自他の感じ方や考え方を比較したり、考えを再構築して学びを深めたりできている子供も多く見られ、思考力、判断力、表現力等の向上につながっていると考えられる。</p> <p>また、昨年度、第5学年では学級担任同士で定期的に交換授業を行った。それぞれがより専門性を生かした質の高い授業を行うことで、児童の学習への意欲の向上が、知識及び技能の定着にもつながったと思われる。</p>

蘇 我	<p>○教職員の意識改革 学力向上アクションプランを教職員に周知し、確実に実践してもらえるよう、校内用アクションプランを作成し、活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焦点を絞った指導 ・教材研究、板書計画の習慣化 ・児童との関わりの充実ときめ細かな支援 ・学級に合った授業構成（導入・主活動・まとめ） <p>○基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を習慣化させるために、保護者用・児童用の家庭学習手引きを配付して毎週木曜日に実施した。 ・テスト範囲を指定し、国算大会を年2回実施することで、主体的に学習に取り組めるようにした。
小中台	<p>学習に対する取組の二極化への対策を中心に取り組んだ。学力の低い児童の実態把握と共通理解を図り、学級内での個別指導や取り出し指導を行った。朝学習（火・木）の時間に対象児童を特別教室等に集め、教務主任や専科教員から個別の指導を受けられるようにした。国語や算数のドリルを中心に、基礎・基本の内容の定着を図ることができた。</p>
土 気	<p>昨年度の校内研究において国語科で「読解力の向上（説明文）」に努めてきた。そのための具体的な手立てとして、的確に文章を読み取るために以下の手立てを講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やすための取組み（言葉集め、ことわざ・熟語、慣用句集め、短文づくり等） ・学んだ言葉を使う場づくり（感想、振り返り、作文、話し合い、スピーチ等） ・対話的な学びの充実（教科や単元に合わせて、思いを伝え合うための場の設定、話し合いの焦点の明確化等） <p>また、高学年は次のような取組みも積極的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の充実（達成感を味わうために読書リスト作成） ・新聞づくりや活動の振り返り（書くことに慣れる、苦手意識をなくす） <p>どの手立てにおいても、国語だけにとらわれず、他教科でも意識をして場を設定したり、教科横断的に取り組んだりしたことで、児童の力の底上げにつながったと思われる。</p>
宮野木	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しをもたせるために単元計画を拡大掲示することで、毎時の授業が単元計画のどの部分にあたるのかをイメージしやすくなり、見通しをもって意欲的に取り組める児童が増加した。 ・漢字の定着を図るためにミニテストを反復して行い定着を図った。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入において、前時の復習と本時の学習における違いを意識させることで授業の焦点化を図った。 ・理数サポーターを効果的に活用し、個に応じた支援を実施した。
生浜西	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心して過ごせる学校・学級を目指して、友達の関わり方や言葉の使い方など具体的な指導を繰り返した。 ・「ありがとうの会」や「卒業式への参加」を最高学年に向かう大きな目標とし、学年全体で一つの目標に向かって努力し、小さな成長を称賛する機会を設けた。学級会で決めたことや学校行事に向けての練習など、自主的に活動する機会を大切に、経験を重ねて自信をつけられるようにした。 ・漢字のミニテストを繰り返した。 ・算数では単元の復習を丁寧に行った。 ・教科によっては、個別最適な学びを意識した自由進度を取り入れた授業展開を行うことで、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
北貝塚	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習の時間に毎回小テストを行い、基礎・基本の定着に努めた。 ・毎回の授業の内容を確実に行った。

柏 台	<p>国語の「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」の問題において改善が見られた。昨年度から各教室に掲示物として「場合による接続語の使い方」を掲示し、教科に限らず自分の思いを書いたり、周りの人に伝えたりしたときに積極的に活用することを学校全体で取り組んだ結果と考えられる。</p> <p>算数の「図形」の問題において改善が顕著に見られた。ICT 機器を教師も児童も積極的に活用し、児童が多面的に図形を理解する場面を増やしたことが、課題解決に役立っていることが考えられる。</p>
千城台東	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は、校内研で「自由進度学習」を取り入れた授業を展開した。（算数） 自分で選択して学習を進められることに楽しさを感じ、それにより、児童の学習に対する意欲の向上が見られた。 → 学習の進め方、下位層の手立ては要検討
幸町三	<p>本校は、小中一貫校として、小中の教職員が各教科部会を設け、目指す子供の姿やそれに向けて、身に付けさせたい力を教職員間で共有しながら日々の授業に取り組んでいる。本校では、小中連携を生かし、6年生は中学校図書室の利用を行えるようにしており、読書に勤しむ児童が多い。そのため、「読むこと」において顕著な向上が見られた。また、基礎的な漢字や語句の学習にも力を入れており、その成果が表れたと考えられる。また、算数では、基礎基本の定着のために、ドリルを中心とした反復学習にしっかりと取り組むだけでなく、学力向上アクションプランにも設定しているグループ学習などで考えを伝え合う活動にも力を入れている。そのため、学習して理解したことを児童自身が説明し、アウトプットすることで学力の定着を図ることができた。</p>
千草台東	<p>漢字テストや計算問題などの小テストを継続的に行い、自分自身の伸びや課題を的確に把握することで、学習意欲の向上を図った。</p> <p>学習の中で、ペアや小グループでの話し合いを計画的に取り入れ、自分の考えを友達に伝える機会を多く取り入れるようにした。</p> <p>規則正しい生活習慣や学級・学年の人間関係が良好で、日々の学習に落ち着いて取り組んでいることも要因と考えられる。</p>
磯辺三	<p>教職員が学校教育目標や児童に身に付けさせたい資質・能力を常に意識して教育活動に臨んだ。学力向上アクションプランに基づき、毎週の週案作成時にセルフアセスメントを行うことで、学習のめあてをもつ、指導支援の工夫をする、協働的な学びを設定する等の意識をもつことができた。全職員が「わかる授業」を意識して学習指導を行ったことが学力向上の一助となったと考える。</p> <p>国語に関しては、「書くこと」「読むこと」ともに向上した。（数値が高い）日頃から要点を捉えて学習するように意識させたり、新聞教育に力を入れたりした成果といえる。</p> <p>算数は、どの項目も良好だが、特に「データの活用」が良好であった。データの特徴や傾向を分析し、問題に対する結論について根拠をもって考察する授業に力を入れてきた成果と言える。また、社会科などの他教科でも、資料を基に考察する授業を数多く展開したことが、向上につながっていると考える。</p>
泉 谷	<p>千葉県学力状況調査の結果を受け、教職員で話し合い、一年間で「身に付けさせたい力」を明確にした。その中でも、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるだけでなく、それらの能力を活用する授業に力を入れた。具体物を使ったり、フィールドワークやインタビューを通して児童が主体的に活動できるよう単元構成を工夫したりした。また、授業の振り返りでは児童が自己評価したり、友達同士で相互評価をしたりする場を設定し、単元を通して評価を効果的に行うことで児童自らの課題を明確にした。その課題に対して、教師が個人に合った指導を行うことで学力の向上につながったと考えられる。</p>
小 谷	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童一人一人を取り残さない学習を目指す」を学力向上アクションプランに据え、指導に取り組んでいる。児童一人一人と向き合うために、教育相談や生徒指導を丁寧に行うようにしたことで、児童の自己有用感や規範意識に向上が見られた。 ・最高学年として、児童の主体的な活動を促すために、多くの教職員が一丸となり、児童とかかわって行事を運営したことで、児童が満足感や有用感を得た。 ・高学年において交換授業や専科教諭による授業などを積極的に取り入れている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科における「書くこと」及び記述式回答の正答率が大幅に向上したのは、5年生次において作文単元の授業の充実を図ったことも一因と考えられる。 ・算数科において「知識・技能」に向上が見られ、特に選択式の問題の正答率が高かった。ドリル学習を充実させたり、家庭学習の充実を図ったりしたことが、基礎基本事項の習得向上につながり、正答率を上げたと考えられる。
扇 田	<p>協働的な学びを通して、思考をどのように広げたり深めたりすればよいかを考え、日々の指導にあたっている。児童の思考を広げたり深めたりするためには、どのような協働的な学習活動が効果的かについて追究するとともに、主体的な学びに向かえるように課題設定の場を工夫したり、協働的な学びにつながるよう振り返りを行ったりしてきた。児童自らが問題意識をもち、主体的に取り組むことで、多くの児童が自分の考えをもって課題に向き合うことができていた。また、ICTの有効活用にも力を入れて、日々の学習を行ってきた。授業の導入において Kahoot!等を利用して復習問題を解くことで、児童が意欲的に問題に取り組むことができたり、児童個々の課題を教師が分析できたりして、知識・技能の高まりにつながったと考える。話し合いの段階において Jamboard 等を利用して考えを共有することで、自分の考えの変容を見ることができたり、多くの違った考えを知ることができたりして、思考力・判断力・表現力等の高まりにつながったと考える。</p>

イ 中学校

学校名	取組みの内容
椿 森	<p>国語</p> <p>授業の中で、次の3点を特に重視した。1つ目は問いを立てるということである。共通の問いの他に各個人が問いを立てるという活動を单元ごとに行った。これは1学年から継続している。また、話し合い活動では根拠をもって答えを考えさせるようにした。2つ目は振り返り活動である。授業の終わりに毎回行った。3つ目は指導と評価の一体化である。单元ごとに評価の観点を明確にするとともにどの部分でどのように見取るかを考え、次の指導につなげた。</p> <p>数学</p> <p>図形と関数の単元において次の取組みを行った。まず、図形の証明では、ギガタブの発表ノートを活用して、ヒントを提示することで証明の方針を立てる練習をした。次に関数ではグラフ作成ソフト (GeoGebra) を使い、多くのグラフを次々に表すことでその特徴を視覚的に考察した。</p>
星 久 喜	<p>昨年度より、これまで朝の読書の時間を10分から15分に延ばして、そのうち週2日間 (火曜日と水曜日) を朝読書から朝の自習 (スタディ) 通称「朝スタ」の時間として設定をした。ギガタブで「ドリルパーク」を活用して、5教科の問題を生徒自身で選択をして取り組んでいる。スプレッドシートに実施した内容を記録し、3か月ごとに振り返りを行っている。</p> <p>今後も継続して取り組んでいくとともに、生徒の学力と学習状況とを把握して、各授業に生かせるよう連動する取組みを検討していきたいと考えている。</p>
山 王	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底を図るため、教室内の掲示を行うなどした結果、落ち着いて授業に参加できるようになった。 ・生徒の理解に合わせて、単元実施数を調整し、補充的授業を行った。 ・小テストや確認プリントを増やし、スモールステップを繰り返し、基礎学力の向上を図った。 ・単元末テストや振り返りテストを増やし、指導と評価の一体化をさらに深めた。

3 質問調査結果概要

【資料5】児童生徒質問調査より〔千葉市・全国〕＜令和6年度＞

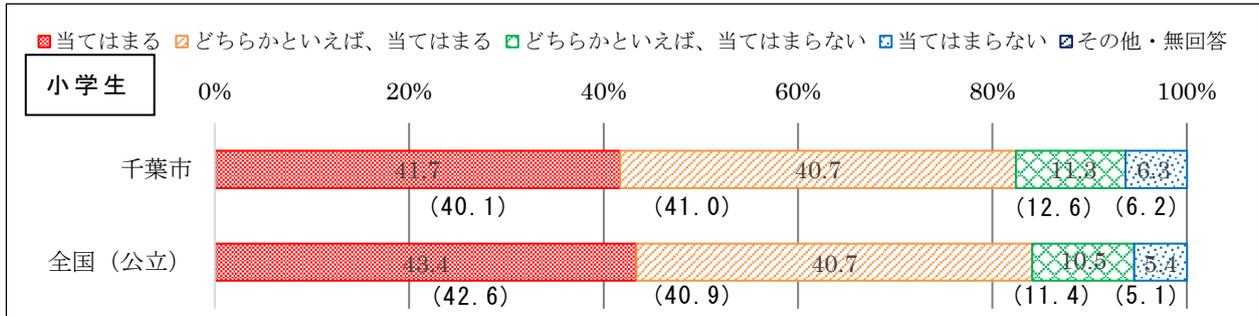
※質問文末の（ ）内の数字は、「児童生徒質問調査」の質問番号を示している。

※帯グラフの（ ）の数字は、令和5年度同質問の回答の割合を示している。

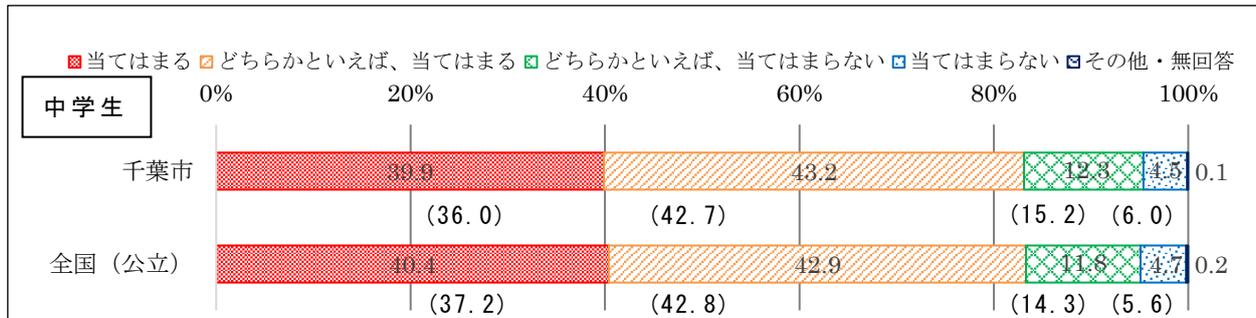
※小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

〔自己肯定感、将来の夢や目標等に関する意識〕

1 自分には、よいところがあると思いますか。（小9）（中9）

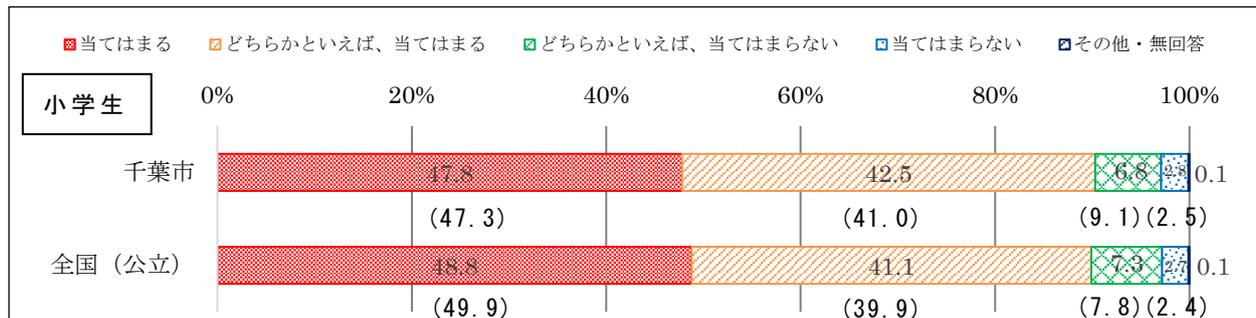


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.4%（全国より1.7ポイント低い）

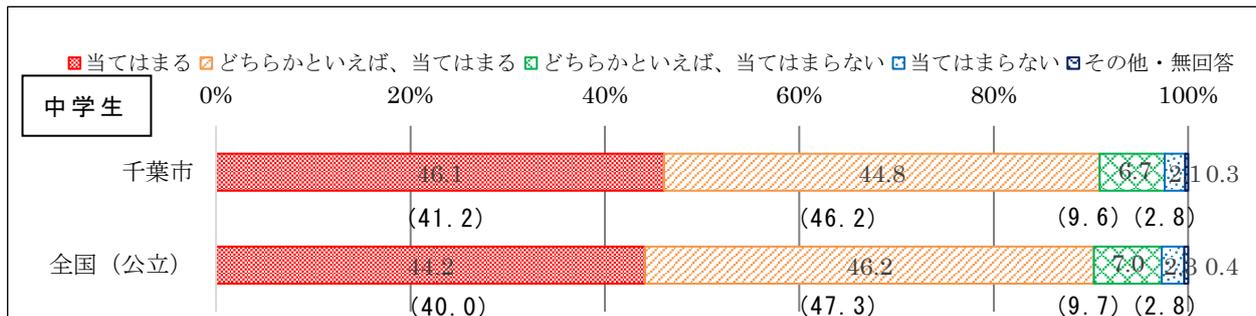


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.1%（全国より0.2ポイント低い）

2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（小10）（中10）

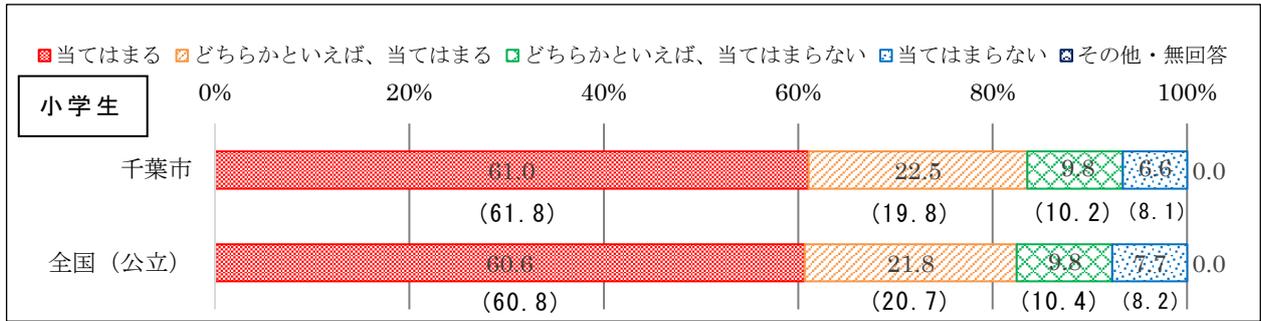


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.3%（全国より0.4ポイント高い）

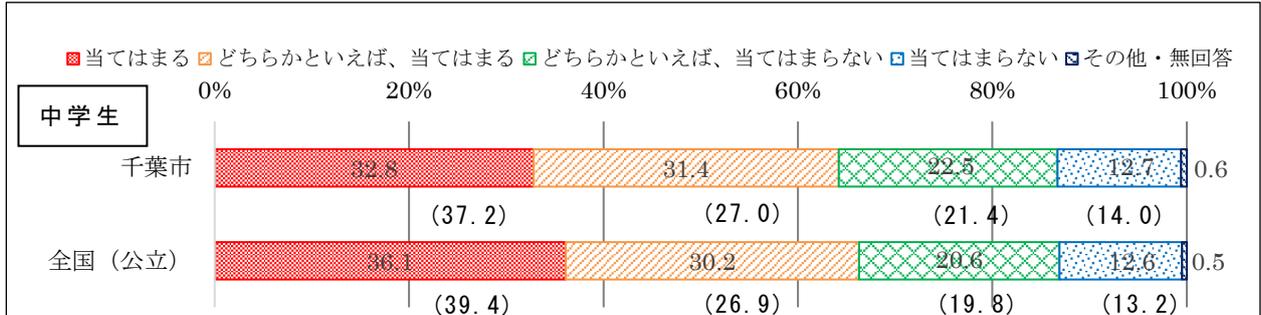


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.9%（全国より0.5ポイント高い）

3 将来の夢や目標を持っていますか。(小 11) (中 11)

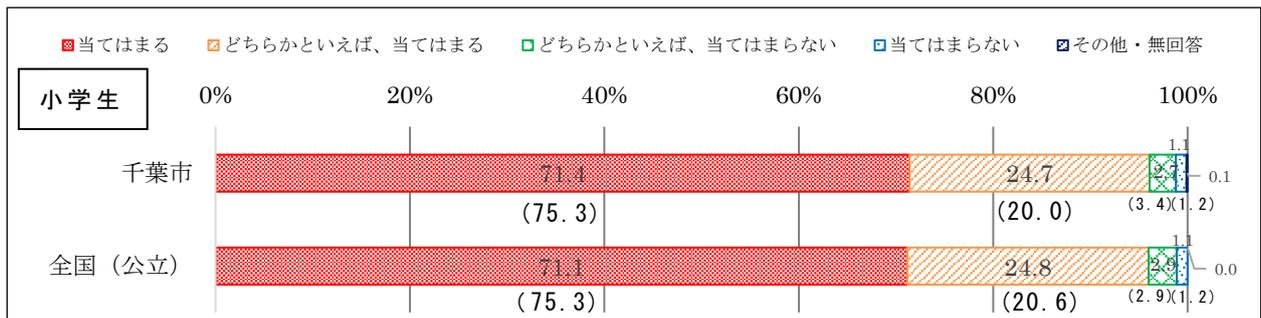


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.5% (全国より 1.1 ポイント高い)

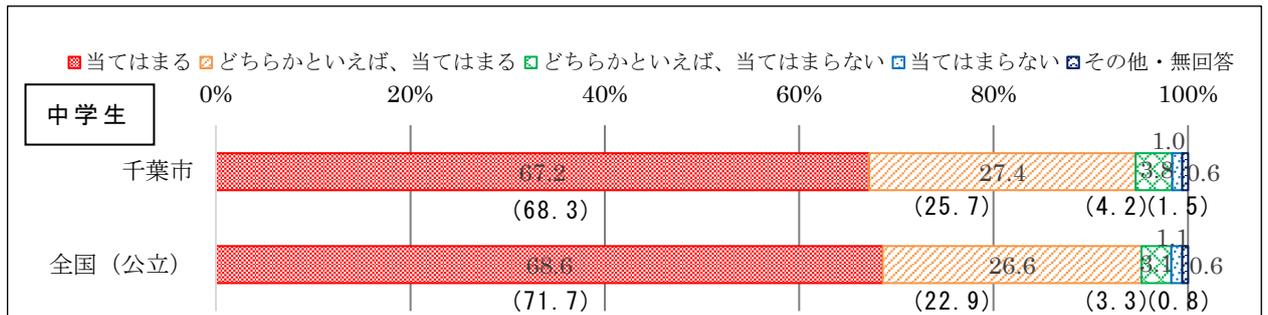


・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→64.2% (全国より 2.1 ポイント低い)

4 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(小 15) (中 15)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→96.1% (全国より 0.2 ポイント高い)



・ 当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.6% (全国より 0.6 ポイント低い)

千葉県ではキャリア教育について、「キャリア教育グランドデザイン」とキャリア・パスポートの活用を通して指導の充実を目指している。

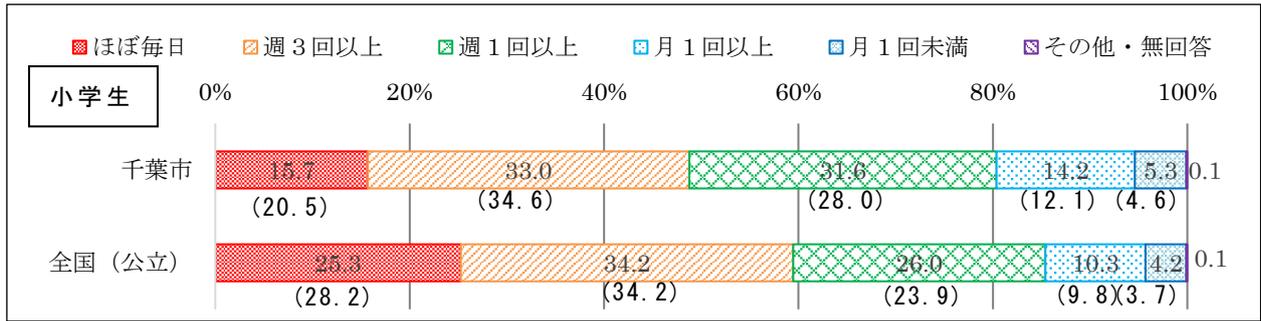
項目 1 (設問 1)「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的な回答の割合は、平成 25 年度以降、増加傾向が続いている。

項目 2 (設問 2)「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答の割合は、昨年度と比べて小学校で 2.0 ポイント、中学校で 3.5 ポイント高くなっている。教職員の働きかけが高まったことにより、設問 1 の肯定的な回答の割合増加につながった。

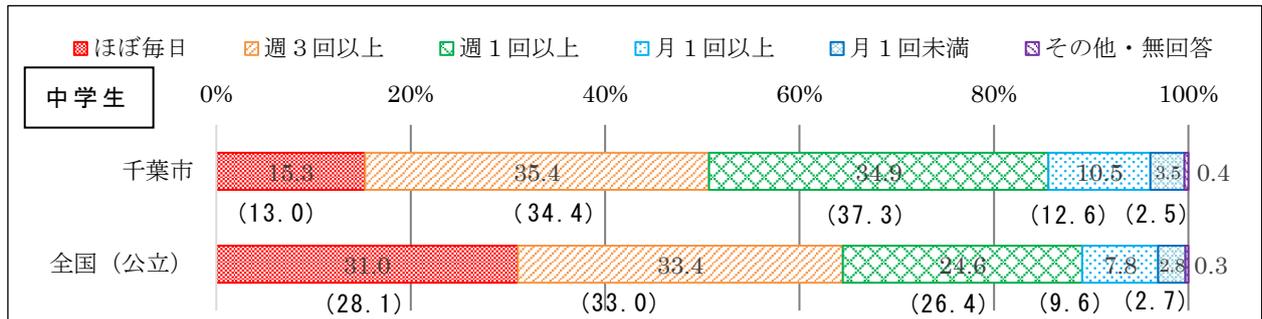
項目 3 (設問 11)「将来の夢や目標を持つこと」については、小学生では肯定的な回答が 8 割程度である。また、設問 4 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については肯定的な回答が小学生・中学生ともに 9 割を超えている。

〔ICT 機器の活用に関する意識〕

5 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(小27)(中27)

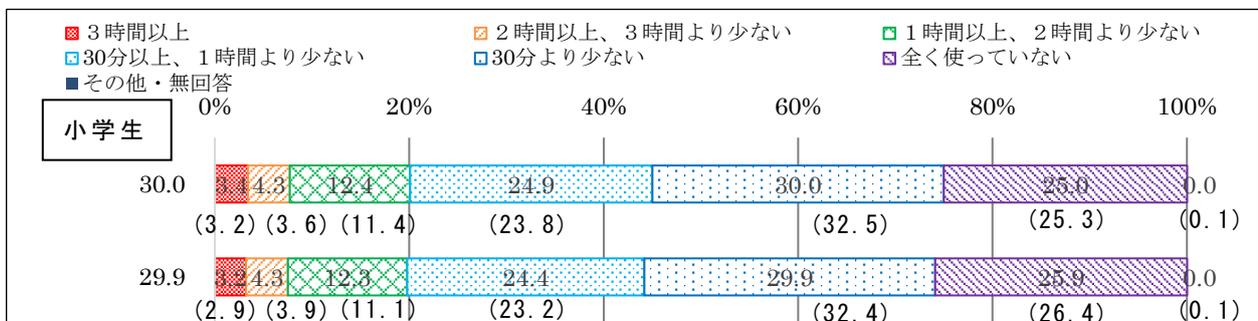


・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→80.3% (全国より5.2ポイント低い)

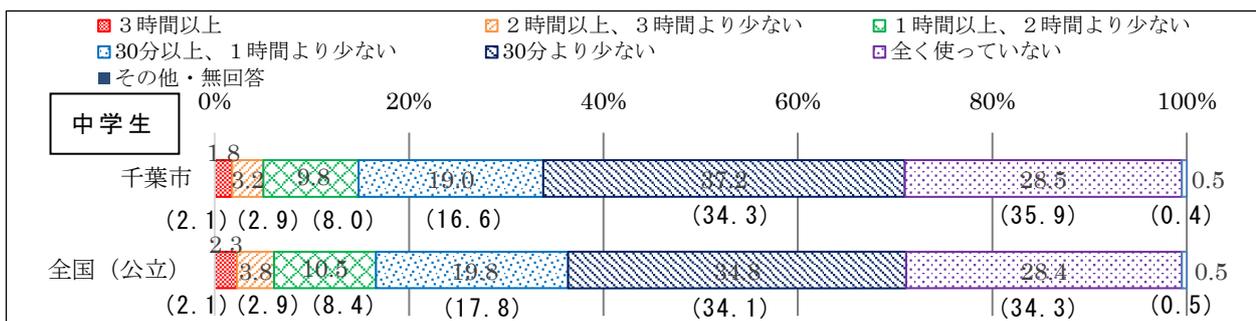


・ほぼ毎日、週3回以上、週1回以上→85.6% (全国より3.4ポイント低い)

6 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除く) (小4)(中4)



- ・3時間以上、2時間以上3時間より少ない→7.7% (全国より0.2ポイント高い)
- ・1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない→37.3% (全国より0.6ポイント高い)
- ・30分より少ない、全く使っていない→55.0% (全国より0.8ポイント低い)

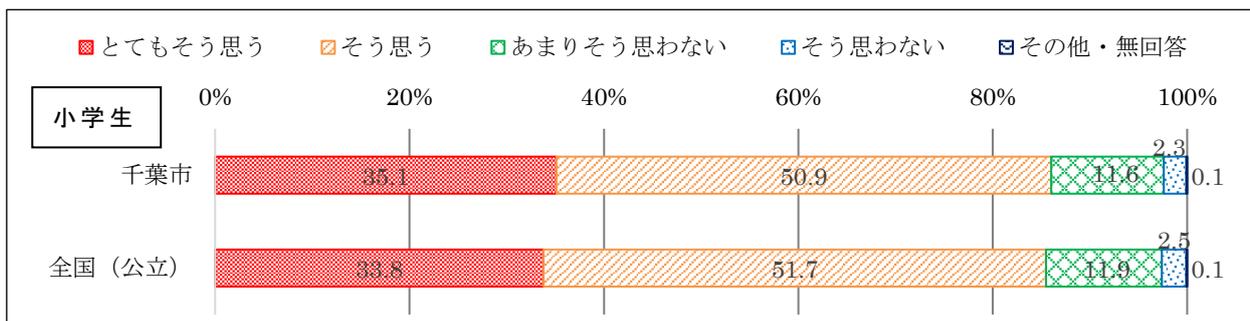


- ・3時間以上、2時間以上3時間より少ない→5.0% (全国より1.1ポイント低い)
- ・1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない→28.8% (全国より1.5ポイント低い)
- ・30分より少ない、全く使っていない→65.7% (全国より2.5ポイント高い)

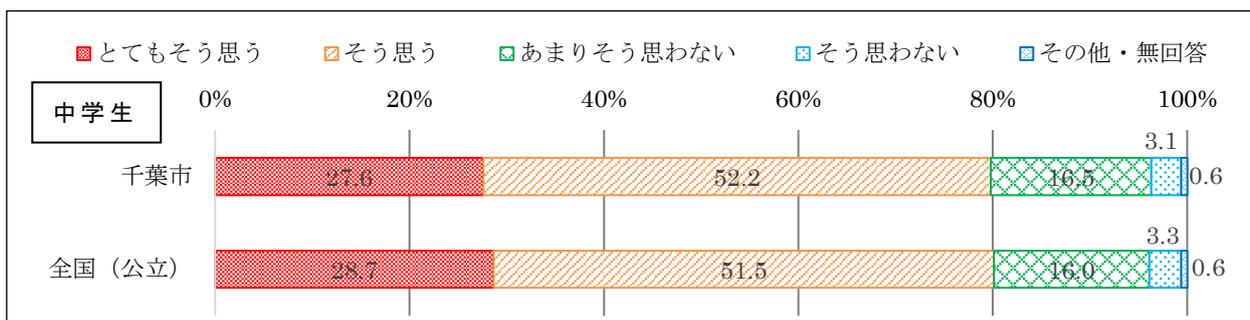
7 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。(小 28-1) (中 28-1)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.0% (全国より0.5ポイント高い)

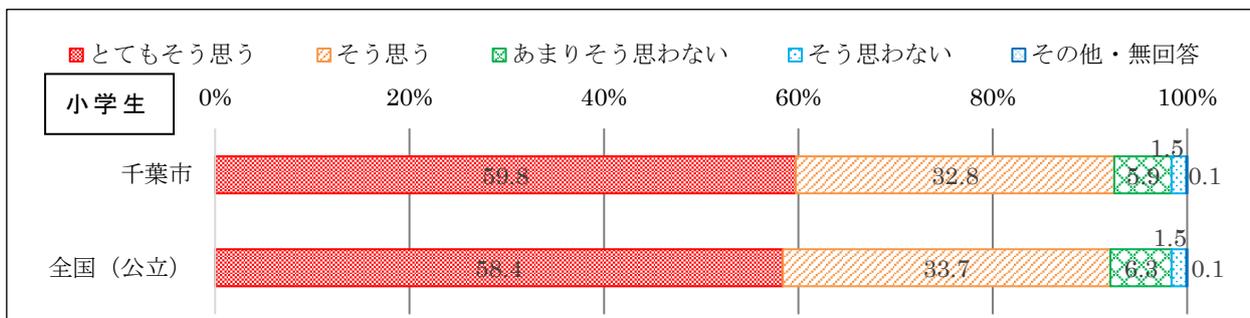


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.8% (全国より0.4ポイント低い)

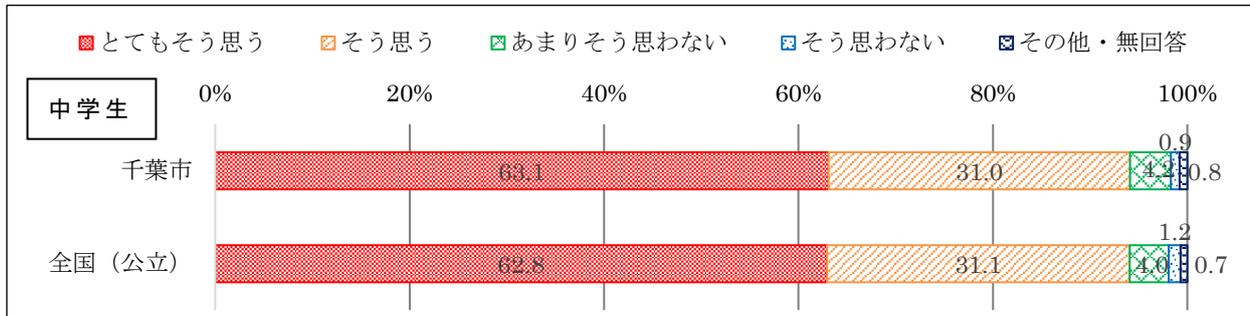
8 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。(小 28-2) (中 28-2)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→92.6% (全国より0.5ポイント高い)

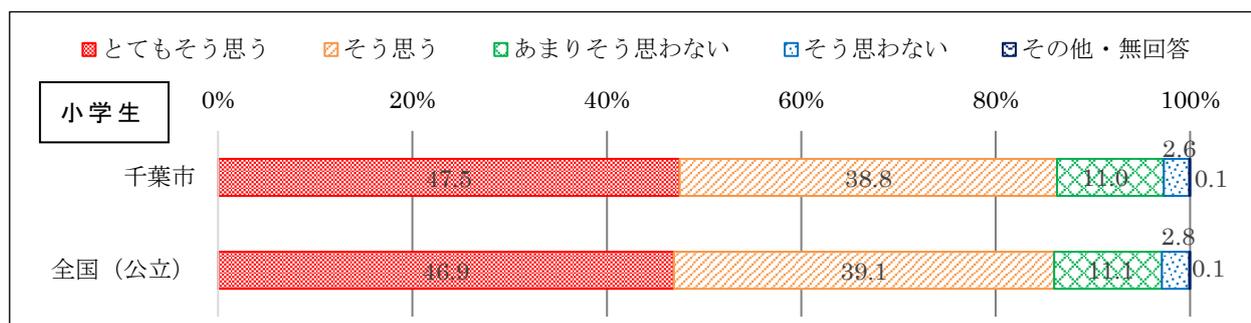


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→94.1% (全国より0.2ポイント高い)

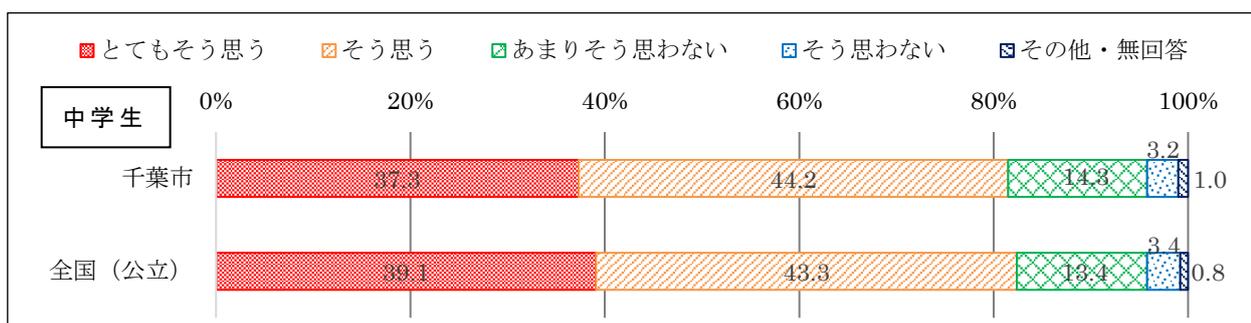
9 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(3) 楽しみながら学習を進めることができる。(小 28-3) (中 28-3)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.3% (全国より0.3ポイント高い)

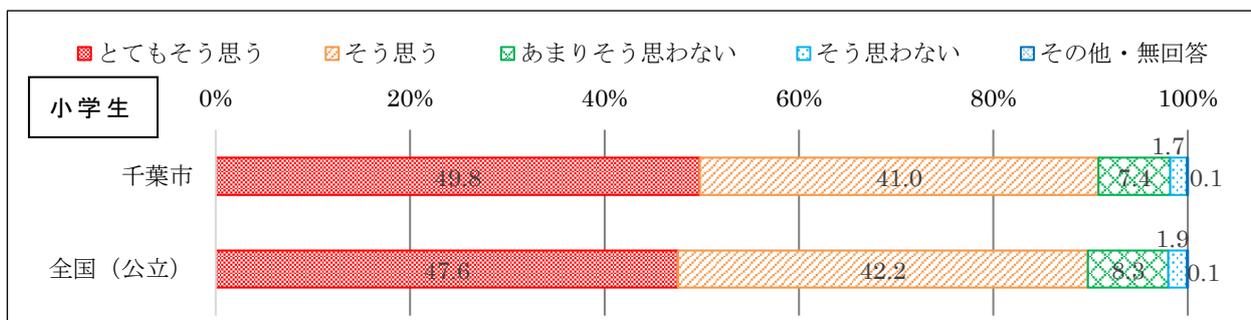


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→81.5% (全国より0.9ポイント低い)

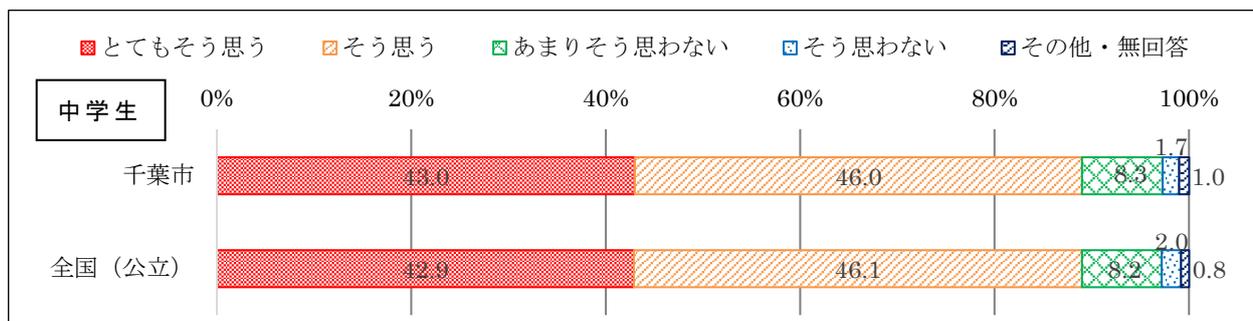
10 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。(小 28-4) (中 28-4)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.8% (全国より1.0ポイント高い)

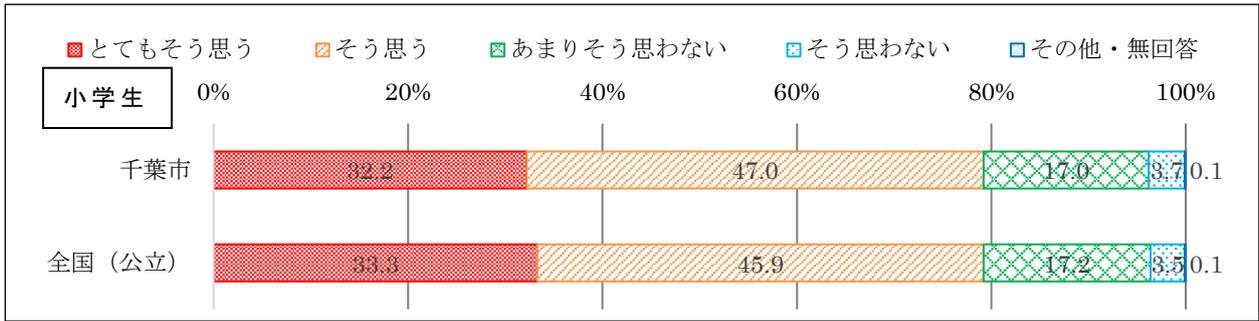


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→89.0% (全国と同等)

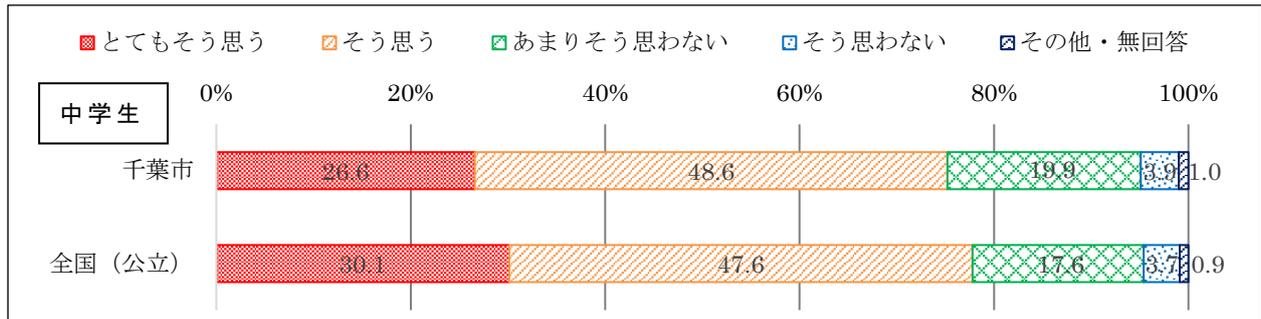
11 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。(小 28-5)(中 28-5)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.2% (全国と同等)

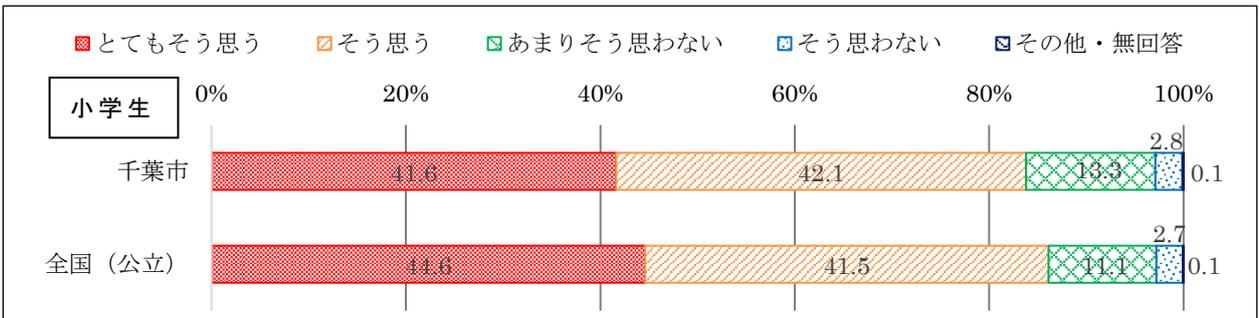


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→75.2% (全国より2.5ポイント低い)

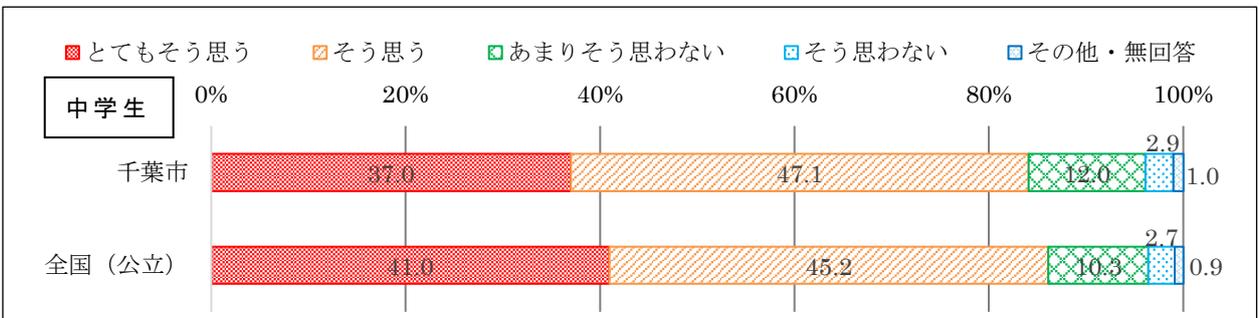
12 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。(小 28-6)(中 28-6)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→83.7% (全国より2.4ポイント低い)

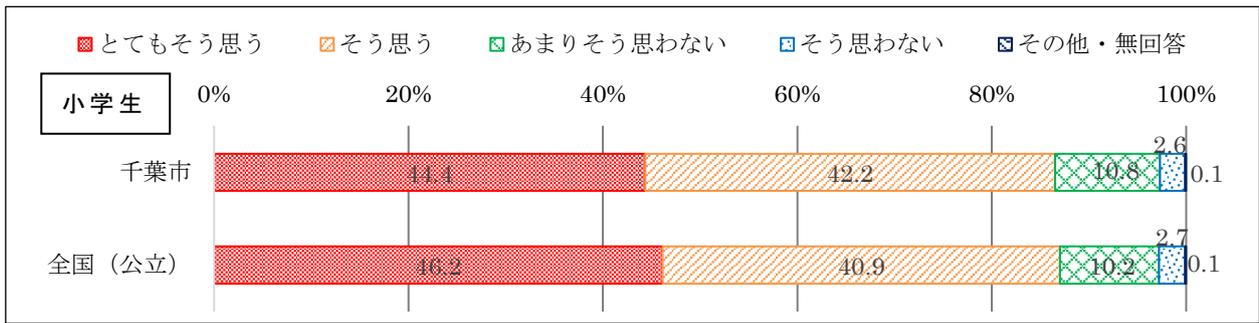


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.1% (全国より2.1ポイント低い)

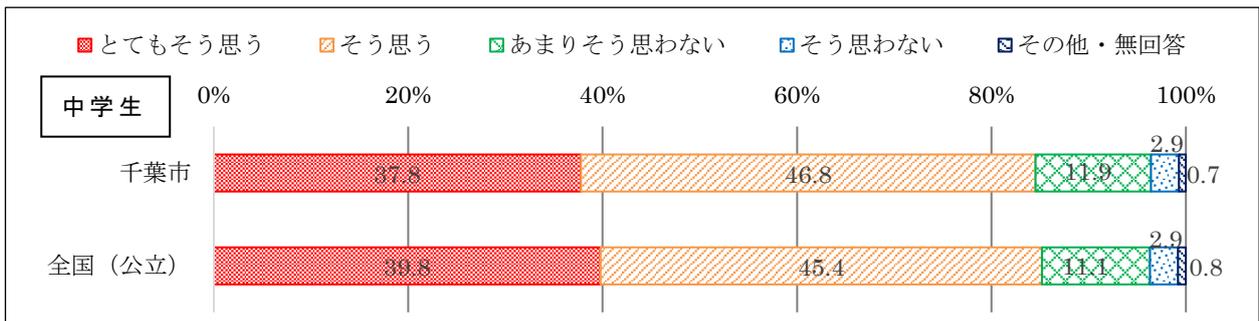
13 5年生まで(1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる。(小 28-7) (中 28-7)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→86.6% (全国より0.5ポイント低い)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.6% (全国より0.6ポイント低い)

項目5(質問27)5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度については以下の通りである。

・ほぼ毎日、週3回以上

→小学校48.7%(全国-10.8ポイント)、中学校50.7%(全国-13.7ポイント)

・月1回以上、月1回未満

→小学校19.5%(全国-5.0ポイント)、中学校14.0%(全国-3.4ポイント)

このことから、授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度はかなり低く、1人1台端末タブレットPCの主体的な活用については大きな課題である。様々な活用例を生かしながら、主体的な活用を推進していく必要がある。

今年度、「主体的・対話的で深い学び」と「ICT機器活用の効力感」との関係性を捉えるため、ICT機器の活用に関する新たな質問が7つ追加された。次の4項目について記載する。

○項目7(質問28-1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。

小学生86.0%(全国+0.5ポイント)中学生79.8%(全国-0.4ポイント)

○項目8(質問28-2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

小学生92.6%(全国+0.5ポイント)中学生94.1%(全国+0.2ポイント)

○項目11(質問28-5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。

小学生79.2%(全国と同等)中学生75.2%(全国-2.5ポイント)

○項目12(質問28-6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

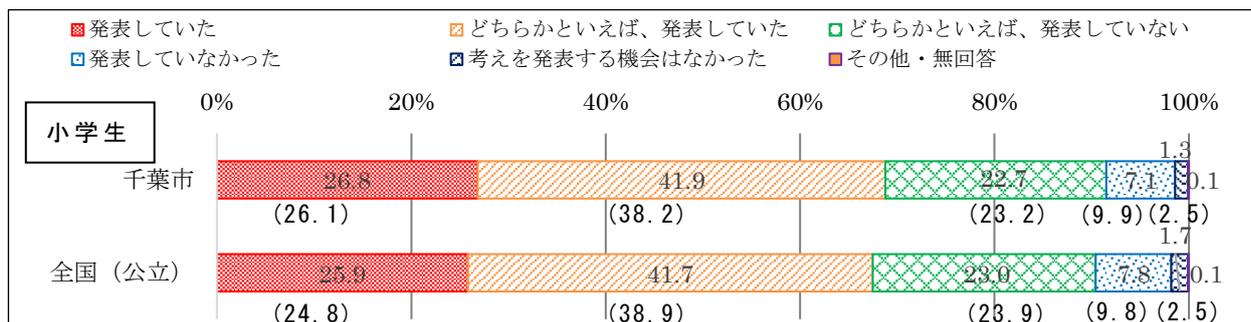
小学生83.7%(全国-2.4ポイント)中学生84.1%(全国-2.1ポイント)

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる(項目7)、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる(項目8)、楽しみながら学習を進めることができる(項目9)について、小学生の肯定的回答の割合は全国より高い。小学校での効果的な活用、主体的な活用の推進が行われている効果である。一方で、使用頻度は全国平均よりも低くなっており、児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるよう環境を整え、授業をデザインすることが求められる。

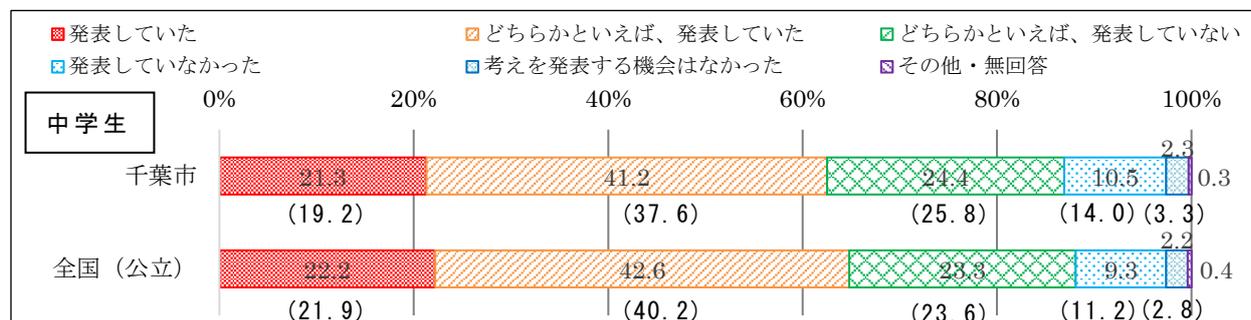
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のための道具としてのICT機器の活用について、今後も取り組みを継続していく必要がある。

〔主体的・対話的で深い学び（個別最適な学びと協働的な学び）に関する意識〕

14 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。（小29）（中29）

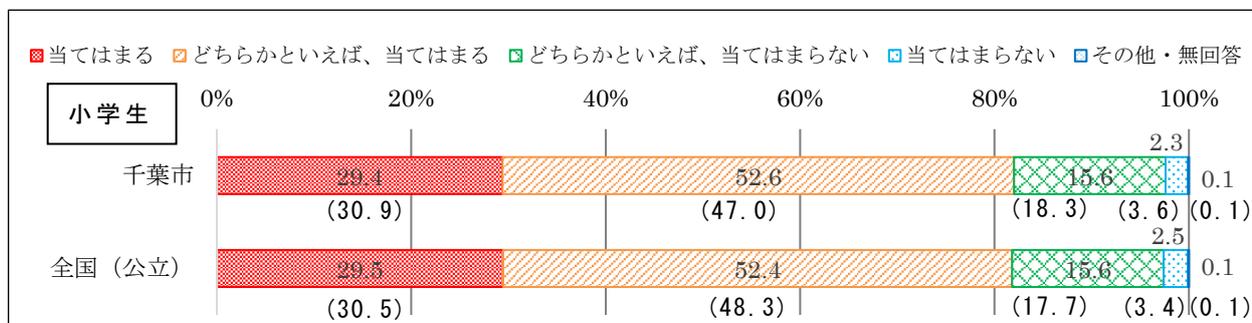


・発表していた、どちらかといえば発表していた→68.7%（全国より1.1ポイント高い）

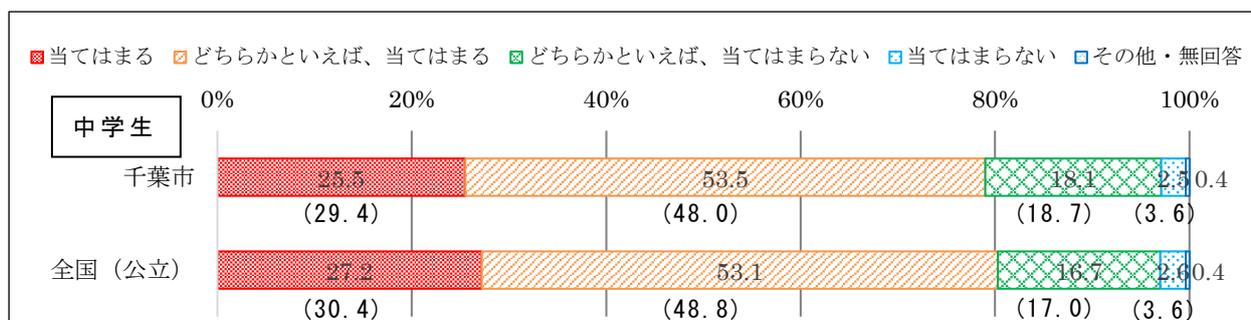


・発表していた、どちらかといえば発表していた→62.5%（全国より2.3ポイント低い）

15 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（小30）（中30）

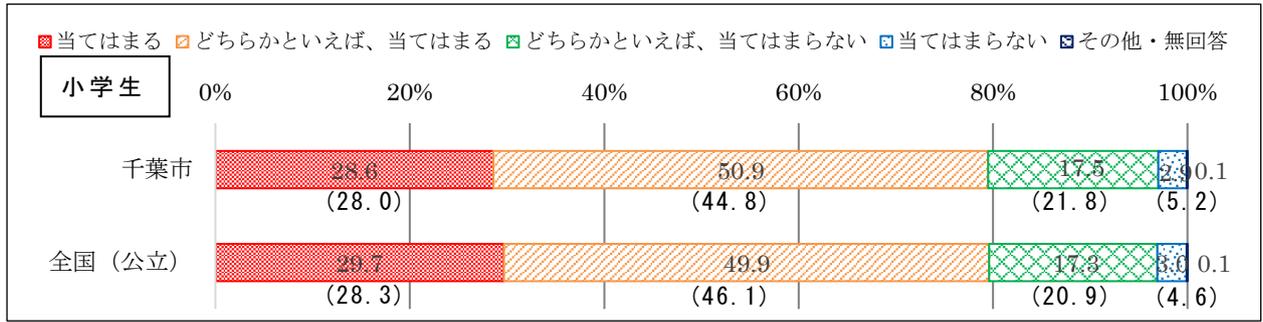


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.0%（全国より0.1ポイント高い）

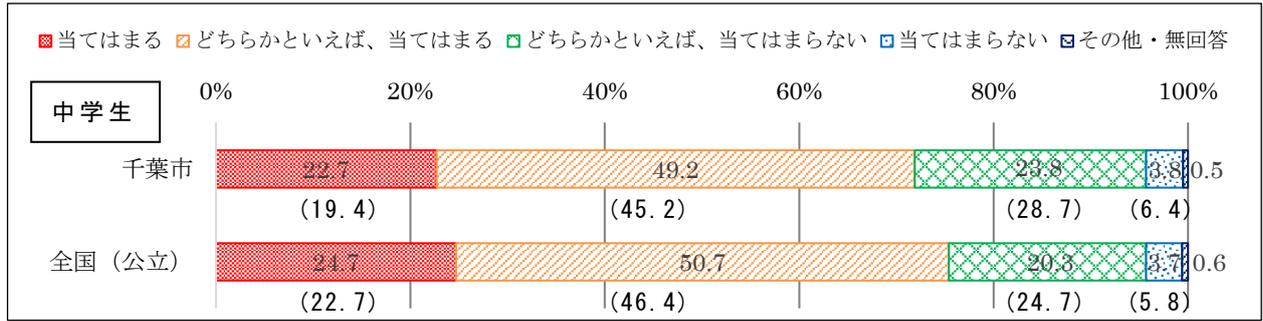


・当てはまる、どちらかという当てはまる→79.0%（全国より1.3ポイント低い）

16 5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。(小31)(中31)

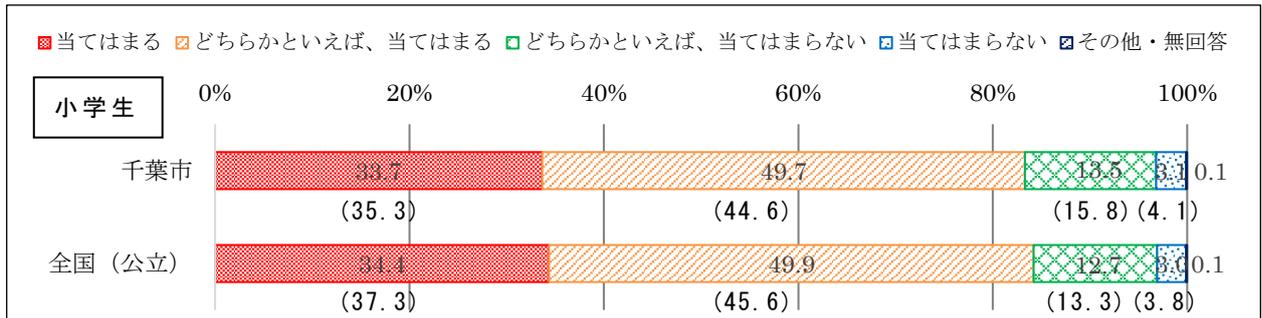


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→79.5% (全国より0.1ポイント低い)

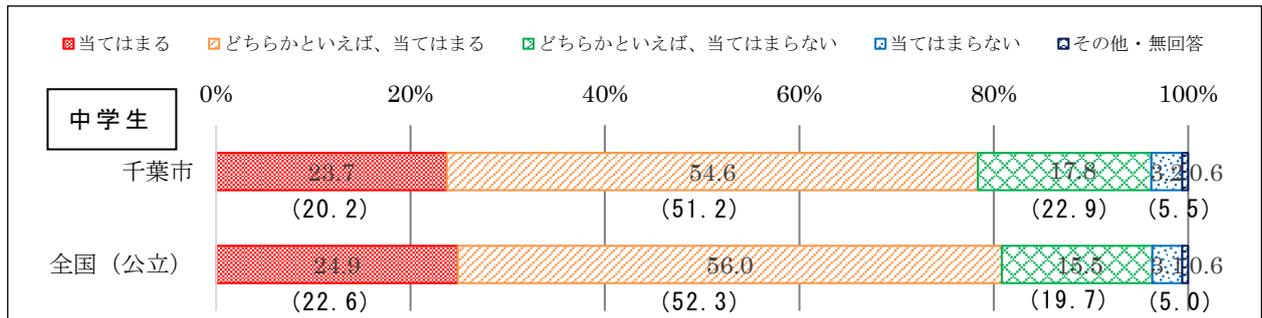


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→71.9% (全国より3.5ポイント低い)

17 5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。(小32)(中32)

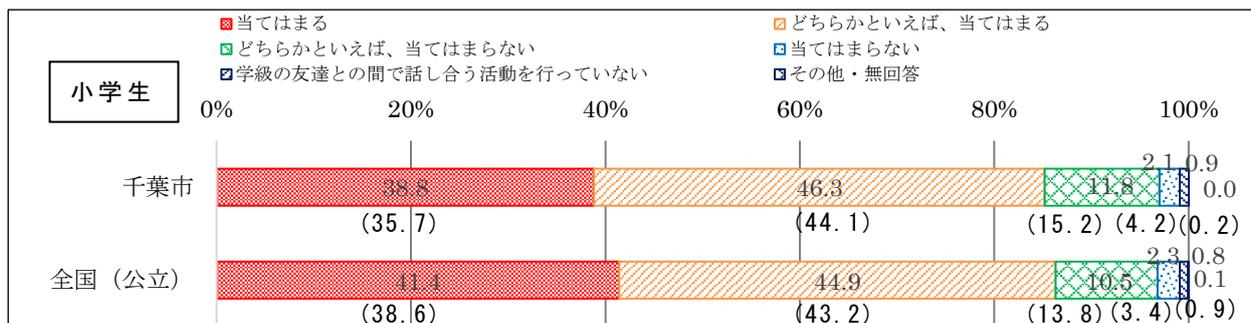


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→83.4% (全国より0.9ポイント低い)

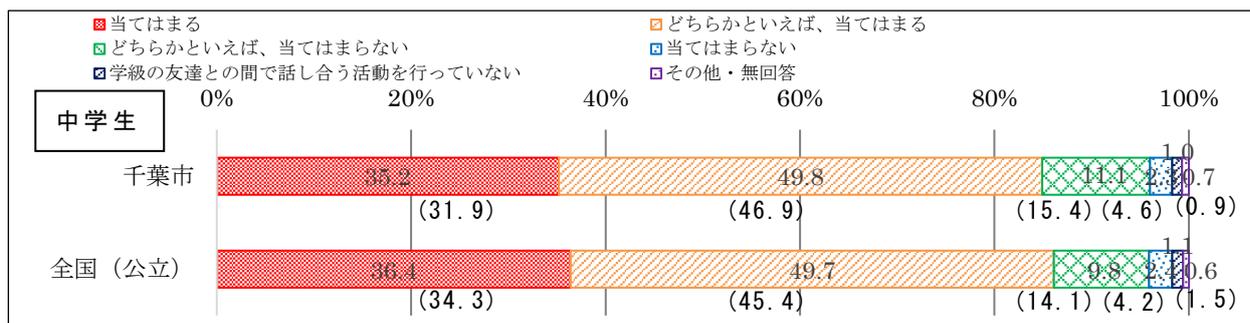


・当てはまる、どちらかというとき当てはまる→78.3% (全国より2.6ポイント低い)

18 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり
 することができますか。（小 33）（中 33）

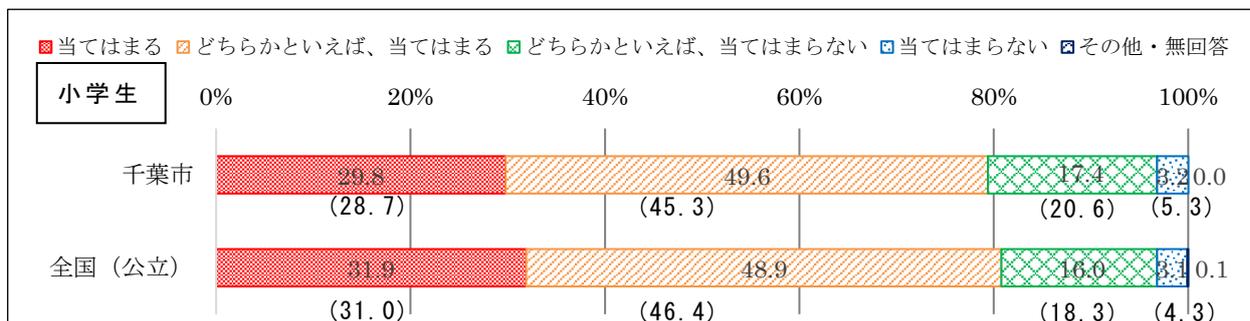


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.1%（全国より1.2ポイント低い）

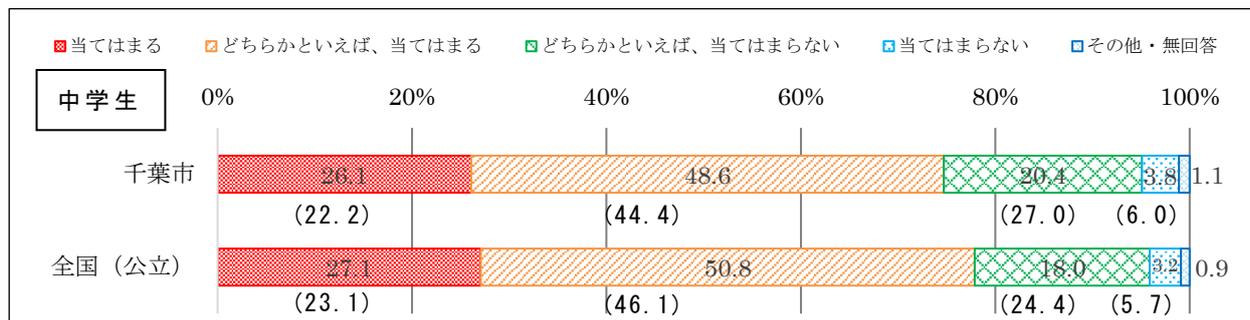


・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→85.0%（全国より1.1ポイント低い）

19 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につ
 なげることができますか。（小 34）（中 34）



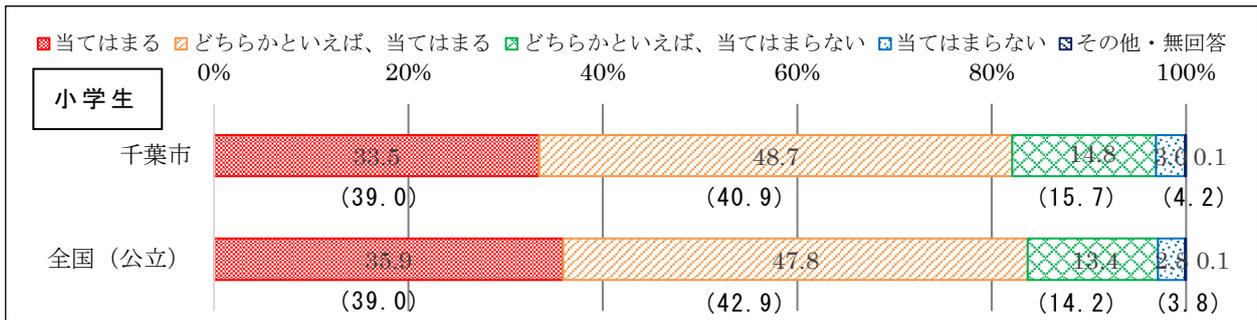
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→79.4%（全国より1.4ポイント低い）



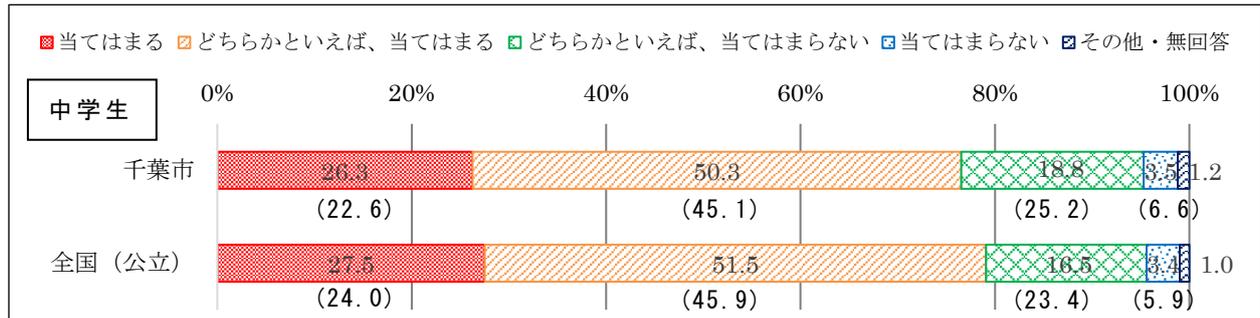
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→74.7%（全国より3.2ポイント低い）

20 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。(小 35) (中 35)

※令和5年度は「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。」



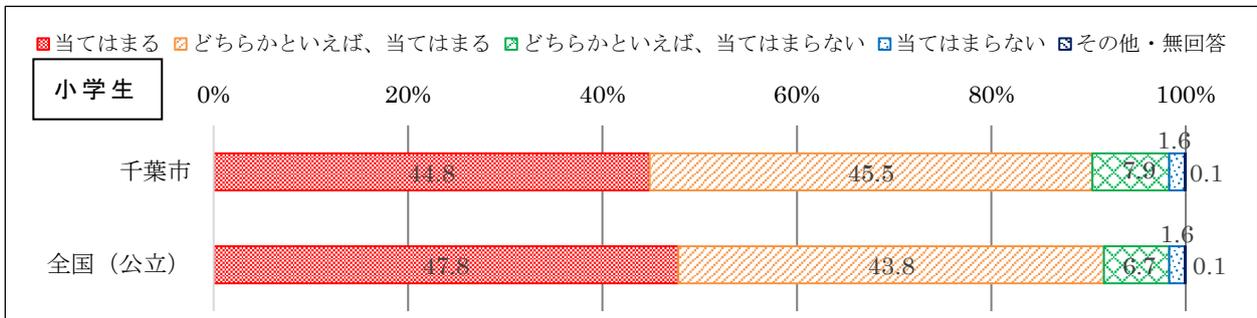
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→82.2% (全国より1.5ポイント低い)



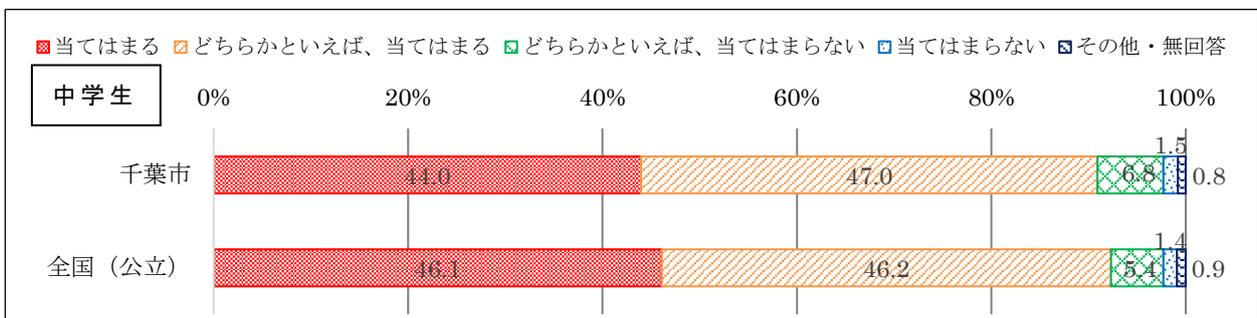
・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→76.6% (全国より2.4ポイント低い)

21 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。(小 37) (中 37)

※令和5年度に同質問は無いため、() の記載なし



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→90.3% (全国より1.3ポイント低い)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→91.0% (全国より1.3ポイント低い)

個別最適な学びと協働的な学びの実施状況について分析するために質問 37 (項目 15) が新設された。特に次の二つの質問について取り上げる。

○項目 17 (質問 32) 5 年生までに (1、2 年生のときに) 受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

小学生 83.4% (全国-0.9 ポイント) 中学生 78.3% (全国-2.6 ポイント)

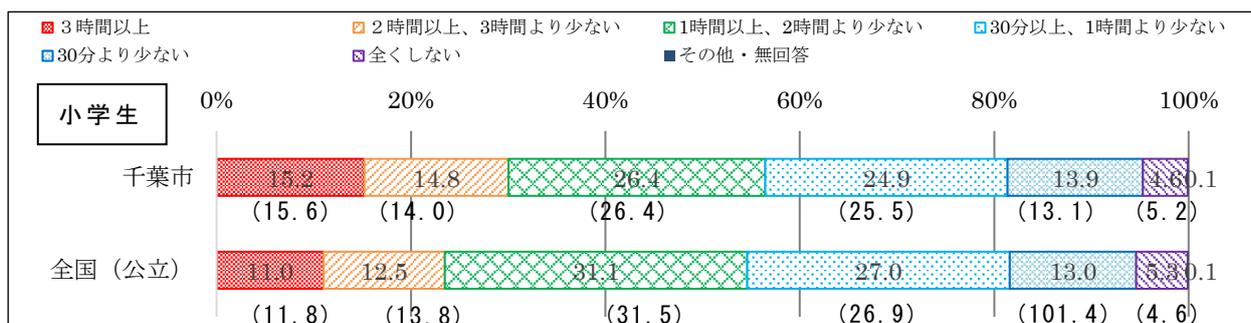
○項目 20 (質問 35) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

小学生 90.3% (全国-1.3 ポイント) 中学生 76.6% (全国-2.4 ポイント)

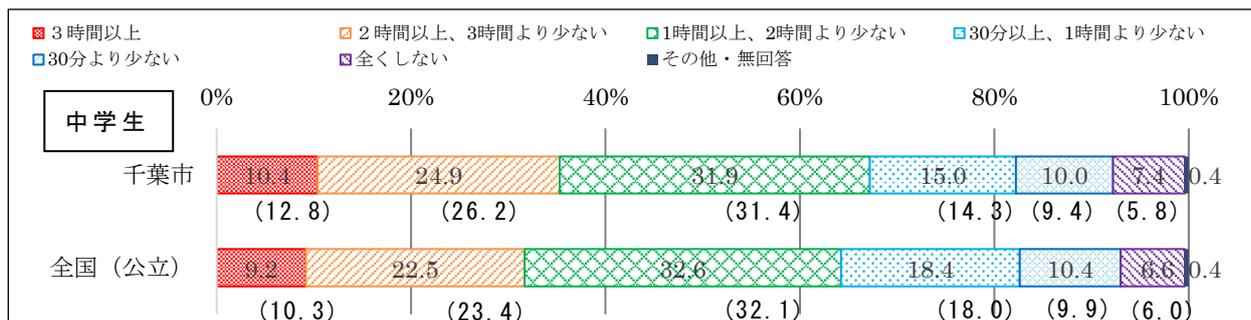
質問 32 は個別最適な学び、質問 37 は協働的な学びについての質問である。小・中学生ともに全国平均よりは低いですが、小学生は個別最適な学びと協働的な学びが実施されていると捉えられる。一方、いずれも中学生になると低下しており、全国との差も大きくなる。また、自分の学びについて振り返って自分の状況を把握して次の学習につなげたり (項目 19、設問 34)、学んだことを次の学習に生かしたりする (項目 20、設問 35) ことについても、中学生になると低下していることがわかる。中学校においても、生徒が自分の学びを意識できるような授業改善が大切である。

〔家庭での学習に関する意識〕

22 学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) (小 21) (中 21)

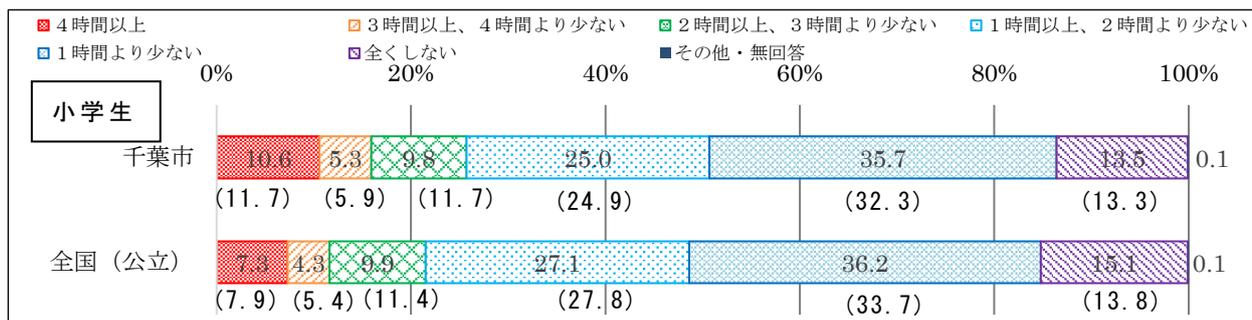


- ・ 1 日 2 時間以上勉強をしている → 30.0% (全国より 6.5 ポイント高い)
- ・ 30 分より少ない、全くしない → 18.5% (全国より 0.2 ポイント高い)

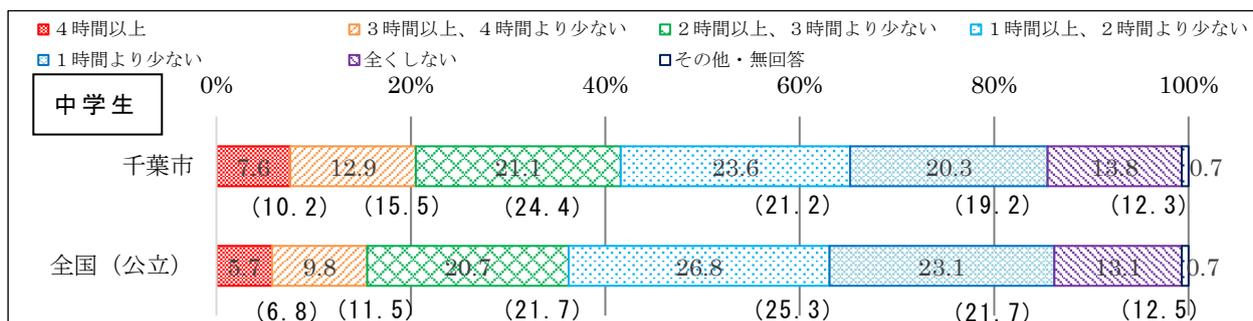


- ・ 1 日 2 時間以上勉強をしている → 35.3% (全国より 3.6 ポイント高い)
- ・ 30 分より少ない、全くしない → 17.4% (全国より 0.4 ポイント高い)

23 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) (小 22) (中 22)



- ・ 1日2時間以上勉強をしている→25.7% (全国より4.2ポイント高い)
- ・ 全くしない→13.5% (全国より1.6ポイント低い)

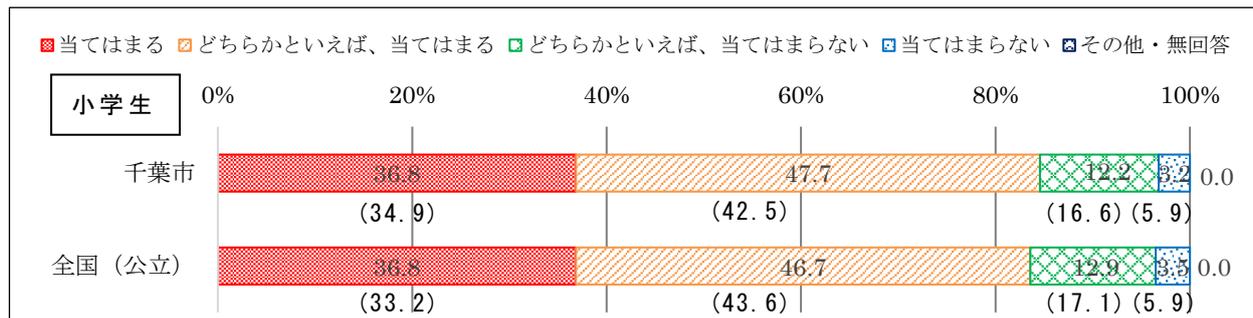


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→41.6% (全国より5.4ポイント高い)
- ・ 全くしない→13.8% (全国より0.7ポイント高い)

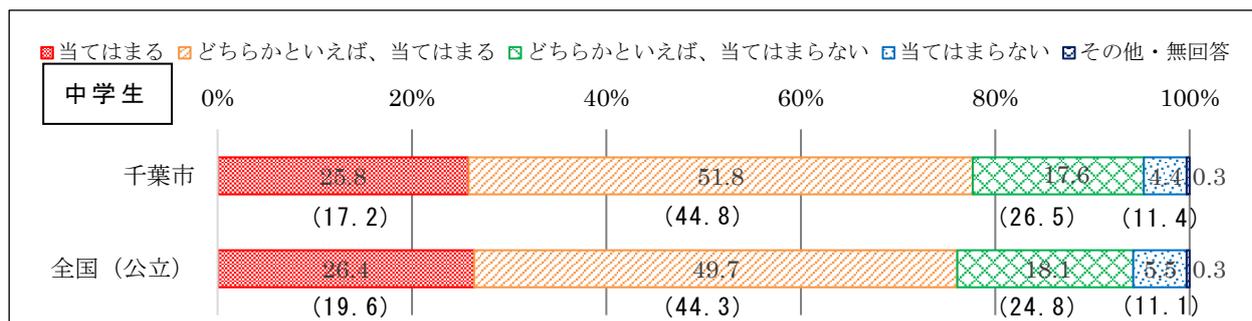
普段1日2時間以上学習している児童生徒の割合は、小・中学生ともに全国平均よりも高く、学習習慣がきちんと身に付いている児童生徒がいることがわかる。一方で、「30分より少ない」や「全くしない」という小学生が18.5%、中学生が17.4%であり、昨年度よりわずかながら増加している。家庭学習を習慣化できていない児童生徒に対する対策が一層必要である。

〔地域・社会との関わりに関する意識〕

24 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。(小 25) (中 25)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→84.5% (全国より1.0ポイント高い)



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→77.6% (全国より1.5ポイント高い)

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」についての肯定的な回答は、小学生で84.5%、中学生で77.6%と全国平均と比べて高い。昨年度より小学生で7.1ポイント、中学生で15.6ポイント上昇している。子供の意欲が高いことが言えるので、地域と連携した教育活動の充実や社会に開かれた教育課程の実現を図ることを一層求めていきたい。具体的には、学校と地域社会が連携し、社会に参画する意義や意識を深めたり、成就感や達成感、社会課題の困難さを味わせたりしていきたい。

4 今後の取組

- (1) 児童生徒の確かな学力の定着を図るため、授業改善を推進する。そのために以下のような取組を行う。
- 市内全小中学校において、全国及び千葉県学力状況調査の結果等をもとに自校の学力の傾向や課題を把握し、その改善に向けた学力向上アクションプランの見直しを行う。その際、教科の学習の中で1人1台端末をどのように活用していくのかについて、教科横断的な視点を大切にしながら児童生徒の活用機会の充実を図るとともに、家庭学習での積極的な活用についても全教職員で共有するようにして、学力の向上に生かす。
 - 全国学力・学習状況調査の結果から考察する改善点を示した「結果概要と授業改善のすすめ」を各学校に配付して、日々の授業での活用促進を図る。また、家庭学習での取組を含め、ICT機器を活用した実践例を収集し、「Best Mix GIGA事例集」の格納数を増やしていく。
 - 主体的・対話的で深い学びの実現のために、単元の学習の見通しをもたせて自己調整を促す支援をするなどして、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図れるようにする。

【例】

<ギガタブの効果的な活用について>

- ・全職員が共通して取り組むことを校内で決め、学力向上アクションプランに記載し実践する。
- ・単元の振り返りで、級友の振り返りの様子を全体で可視化し共有する。
- ・各教科における使用アプリや、プレゼン方法等についての共有化を促進する。

<個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて>

- ・単元の学習の導入段階で、ねらいを明確にするとともに、学習の見通しをもたせる。
- ・教科書の二次元コード等を活用しながら、個々の学習到達度に応じた課題を提供する。
- ・話し合いの後に、参考になった級友の意見を聞いたり、自分の考えがどう変化したのかを問いかけ、全体で共有する。

- (2) 「教育だよりちば」や教育委員会のホームページ等を通して、授業における取組の様子や、ICT機器を活用した学習の効果、家庭学習の大切さ等について、広く保護者に発信する。
- (3) 教育委員会関係各課と連携し、自己肯定感を高めるような指導方法や将来の生き方について考え、夢や目標を持つことができるようなキャリア教育を推進するよう学校に助言する。
- 千葉県キャリア教育の基本方針「未来を拓くキャリア教育」を参考に、キャリアパスポートの活用を促進する。
 - 企業や各種団体、地域、家庭と連携を図りながら、職業体験学習（職場体験や出前授業等）を実施する。